

「Community, Communication, Contribution」地域の方と会話・コミュニケーションをとり、地域に貢献する「3C活動」

取り組み内容のポイント

当法人では地域の方々とともに地域の活性化に取り組むため、地域貢献と地域交流を実践している。そのひとつとして施設の利用者、職員とこれからの社会を担う子どもたちとのつながりを深める「3C活動」を実施し、今後の成果を期待するものである。

茨城県

社会福祉法人

芳香会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL：0280-97-1027 FAX：0280-97-1112

❖法人設立年

1970年

❖法人実施事業

- ①経営施設数合計：9施設
②経営施設・事業【種別毎の数】：
養護老人ホーム…1、特別養護老人ホーム…1、
保育所…2、障害者支援施設…3、重症心身障
害児施設…1、老人保健施設…1
在宅事業（高齢・障害）、共同生活介護…2、
共同生活援助…1、認知症対応型共同生活介護
…1、地域生活定着支援センター（県委託）…
1、芳香会社会福祉研究所…1

❖法人の理念・経営方針

福祉大家（その道に優れた人）

【福祉大家】とは 芳香会初代の理事長が理想とし、
目標とした言葉でした。その信念を実践すべく、
それぞれの事業内容の充実をはかることに邁進す
る。

芳香会の諸活動の基本的な姿勢と全職員の精神的
支柱としての基本方針

1. 高齢・障害児・者・児童を対象とした福祉事
業の展開
それぞれの福祉サービスの提供者とし、プロ精
神を培い常に真摯な姿勢を保ち、その基本となる
哲学・科学技術を持って事業を展開する。
2. 地域とともに
地域の中で信頼される事業所としての役割を担
い、常に実践行動することをモットーとする。
3. 惻隠（そくいん）の情
「ありがとう」の感謝の言葉、「はい」の素直な
言葉、「ご苦労さま」のねぎらいの言葉等、相手
の気持ちを思い測る心を常に持ち続ける。

❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない
②事業報告・計画への記載：記載している

❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

青嵐荘路のとう舎

【施設種別及び利用定員】

障害者支援施設

施設入所支援40名 生活介護 60名

❖活動内容

- ◇活動開始年：2011年6月
◇活動の対象者：
地域の子供会、中学生、保護者、施設の利用者
◇活動の頻度・時間：
年2回、1回あたり1時間30分

◆活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人では地域貢献と地域交流による地域活性化を目指した活動を展開してきた。地域貢献活動では資源回収や環境美化活動を行い、さらに資源回収により得られた収益を環境美化活動や支援活動に還元している。地域交流活動では法人職員や利用者と地域住民や地元企業、学校などとの連携と交流を深める場となるよう環境美化活動への参加呼びかけや、地元中学校の文化祭で利用者の作品展示を行っている。

昨年度は当施設の設備を利用した天体観測会を実施し、地域の子ども達や保護者が一緒に参加し交流を深めるなど、新たなつながりの形ができてきている。しかしながら少子化の影響もあり、地区に2つ存在していた子供会は1つとなるなどの課題も地域には存在している。

これからの地域社会を担う子どもたちとのつながりを深めること、利用者も地域住民として地域とのつながりをもつことを目指し、地域活性化に向けた活動として、地域の方と会話・コミュニケーションをとり、地域に貢献する「3C活動」の実施に至った。

◆実施内容

地域に根ざした施設作りを目標に、以前から施設行事等でお付き合いのある近隣子供会に協力要請を行い、また今回新たな試みとして、中学生に対する福祉への啓発の意味合いも含め、近隣中学校2校を訪問し協力を仰いだ。

活動当日は、参加者を3グループに分けて施設周辺の除草・清掃作業を行った。子供会（小学生）の参加者を中心に構成したグループでは、鎌・草刈機などの刃物の扱いは危険であることから、職員・保護者が刈った草・木やゴミ拾いを中心に行ってもらった。中学生のボランティアが参加したグループでも、職員・保護者が刈った草・ゴミを拾いや、施設利用者との交流を中心に行ってもらった。活動自体は約1時間で終了し、最後にみんなで記念撮影を行い、参加されたボランティアの方には、施設利用者が育てた花を感謝の気持ちを込めて《ありがとうフラワー》としてお渡しした。

◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

この活動は利用者にとって普段接する機会が少ない地域の子どもたちや保護者との交流の場となるとともに、「自分たちの手で」活動することにより地域貢献活動を「実感する」機会となった。今後さらに活動を継続することで地域住民としての意識と役割をもつことが期待できる。

子供会からは昨年度の天体観測会に参加した児童もみられ、今後の継続した活動につながることが期待される。また活動中、自然の中で遊ぶ姿や集めた草の量を競い合う様子がみられたことから、普段の遊びや生活の中で環境への関心をもつ機会を提供することができた。

中学生は終始控えめな様子で活動中の大きな変化は見られなかったが、後日教頭先生からの「障害者施設を理解するいい機会になった」という言葉からも、福祉への啓発という意味でも効果があったことがわかる。

また保護者と当施設の利用者や職員が接する機会はこれまでほとんどなく、この活動が知り合うよい機会となった。地域の方からも「除草のおかげで道が見やすくなった」「道が通りやすくなった」という声が聞かれ、この活動の結果周辺環境の整備への貢献がみられたといえる。



利用者とともに木の伐採作業



子どもたちの熱心な作業風景



最後にみんなで「お疲れ様でした」



子どもたちも大人顔負けに頑張りました

◆今後の展開

以上のことから「3C活動」が地域の子どもと利用者を中心として、交流と貢献の機会となり、活動を継続することで地域の活性化へとつながる可能性をもつことを確認できたといえる。

今後は当法人施設が地域に根ざした施設となることを目指し、地域住民と利用者、職員の交流をさらに深め、地域の方が気軽に当法人施設とかわれるよう、また利用者や職員が地域の活動へ参加しともに取り組めるよう、「3C活動」を発展させながら展開していきたい。

◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
備品代	14,945円	法人負担	18,925円
飲み物代	3,980円		
<合計>	18,925円	<合計>	18,925円

- ・取り組みに係わった職員数 13名
(職種等：施設長 ・生活支援員)
 - ・取り組みを実施している施設の事業規模
(平成22年度決算の事業活動収入) 286,248千円
- ※法人全体の事業規模(同上) 2,849,192千円